

2023年度第2四半期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2023年11月13日（月）16時00分～17時00分
当社出席者: 代表取締役社長 佐藤敏彦、常務取締役 古川敏之、常務取締役 大治良高

主な質疑応答:

【時計事業】

- Q) 時計事業の下期見通しについて。
- A) 国内市場はインバウンド需要の回復もあり上向き基調。北米市場はここまで堅調な推移を続けているが、景気の先行きをやや慎重に見ている。欧州市場も同様にリスクを抱えながらも堅調さを保つ見通し。中国市場は底を脱したと見ているが、経済回復に遅れが出ており弱含み。
- Q) 時計事業の上方修正は、為替前提の変更による円安効果が大きいのか。
- A) 国内、欧州、北米市場は為替の影響を除いても上振れ基調。営業利益はムーブメントにおいて下期に行う若干の生産調整の影響を織り込んでいる。為替影響を除くと概ね想定線を維持。
- Q) 単価上昇の収益改善への寄与について。広告宣伝投資は重しになっていないか。
- A) 毎年の値上げと高単価製品の投入により単価上昇を進められている。広告宣伝投資も行っているが、2023年度上期営業利益率は13%まで改善しており、従来よりも着実に収益改善が進められていると認識。
- Q) ムーブメント販売の今後の見通しについて。
- A) 中国市場の回復が弱い。欧米市場においても需要回復が想定より遅れているためやや慎重に見ている。

【工作機械事業】

- Q) 今後の受注動向の見通しについて。
- A) 下期の受注は2023年度第2四半期より下がる見通しはないものの、回復基調に入るというよりは低い水準のまま一進一退の状況が続くと見ている。回復に転じる時期は見通しづらい。2024年に入ってからどのタイミングで受注状況が反転するか注視。
- Q) 販売先の地域や業種で受注環境の違いはあるか。
- A) 業界別では医療関連が堅調であり、今後も安定的な推移が期待される。自動車関連は生産が回復しているものの設備投資は様子見が続いている。医療関連以外の領域は立ち上がり時期を言及しづらい。
- 地域別ではアジア市場が最も厳しいが、欧米、国内市場の回復が比較的早めになるかもしれない。